

分科会

2017年6月25日

今年も例年と同じように、3つのテーマで分科会が開催されました。

第1分科会では、くらしと協同の研究所の若手研究者が2016年度から取り組みはじめた若手集会の報告も兼ねて、「今、考える『協同組合』の価値～若手の目に映る『協同』から」というタイトルで、若手の視点から「協同」がどのようなものとして捉えられているのかについて議論を深めました。協同組合の思想と実践がユネスコ世界無形文化遺産に登録されたことも踏まえ、「協同」について今一度考えるきっかけにしたいというねらいがありました。

第2分科会では、「協同組合による地域づくりへの道－産直・地産地消から福祉まで－」と題して、グローバル化・新自由主義の中で、「食と農、地域とくらしを守る」という願いを協同組合がどのように叶えることができるのかについて議論を深めました。愛媛県で地域全体として食と農を中心に地域づくりに取り組む無茶々園と、京都生協の地産地消・産直についてお話いただきました。

第3分科会では、シンポジウムの内容をさらに深めるために、「生協職員の働き方を考える～医療福祉生協職員調査から何がみえたか～」と題して、医療福祉生協の働き方について議論を深めました。協同組合らしい働き方とは、これからの生協の在り方を考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

どの分科会におきましても、多くの方々と情報交換しながら議論を深めることができました。今後の活動に活かしていただくことができれば大変嬉しく思います。

(本誌副編集長 青木美紗)

分科会で報告・コメントをいただいた方々

第1分科会



加賀美 太記氏



青木 美紗氏



則藤 孝志氏



北川 太一氏

第2分科会



小池 恒男氏



大津 清次氏



福永 晋介氏

第3分科会



中村 圭二郎氏



黒岩 勝博氏



二場 邦彦氏



内藤 三義氏